

## 萱野茂二風谷アイヌ資料館 と 平取町立二風谷アイヌ文化博物館 との関係

「萱野茂二風谷愛努資料館」與「平取町立二風谷愛努文化博物館」的關係  
The Relation Between the KAYANO Shigeru's Nibutani Ainu Museum and  
the Nibutani Ainu Culture Museum in Biratori

萱野志朗 萱野茂二風谷アイヌ資料館 館長  
呂青華 翻譯  
圖片提供 萱野志朗



私の父・萱野茂前館長（2006年3月31日まで「萱野茂二風谷アイヌ資料館」館長）は、1926年に平取村二風谷でアイヌ民族として生まれ、アイヌ語の伝承ならびにアイヌ文化の継承・保存に人生を捧げ、昨年（2006年）の5月6日、満79歳で亡くなった。萱野茂はアイヌ語を母語として育った世代の最年少であった。

萱野茂らが中心となって、1972年に二風谷アイヌ文化資料館を開館した。この資料館は、萱野茂が自ら所有する土地と二十有余年にわたり個人的に収集してきたアイヌ民具を提供し、日本自転車振興基金の助成金（438万円）や平取町（270万円）と北海道（200

我的父親，前館長萱野茂（2006年3月31日之前為「萱野茂二風谷愛努資料館」館長）以愛努民族的一份子，1926年出生於平取村二風谷，他將一生奉獻給愛努語的傳承，以及愛努文化的繼承和保存。去年（2006年）5月6日去世，享年79歲。萱野茂是以愛努語為母語受教長大那一輩人當中年紀最輕的一個。

1972年以萱野茂等人為中心，設立二風谷愛努文化資料館。這座資料館是私立的，由萱野茂自己提供土地及個人長達二十多年收集的民具，日本自行車振興基金會的贊助款（438萬日元）、平取町（270萬日元）



◀ 萱野茂二風谷愛努資料館  
的設立者萱野茂（1926～2006）。

万円)の補助金を基に鉄筋コンクリート製の建物を建てて、一般寄付金(259万円)で陳列ケースや内装を整えて出来た私立の館であった。初代館長は貝澤正氏で萱野茂は副館長を長く務めていた。開館から5年後の1977年には、土地・建物・展示資料を平取町へ無償で移管し、移管後も館長は貝澤正氏が務めていたが、萱野茂は1981年の4月か

和北海道(200萬日圓)の補助款搭建鋼筋水泥的建築物，一般捐款則用在內部裝潢和購置展示櫃。首任館長由貝澤正擔任，而萱野茂任副館長很長一段時間。開館5年後後的1977年，土地、建築物、以及展示資料無償移交給平取町管理，移管後仍由貝澤正擔任館長，萱野茂於1981年4月任該資料館的館長。之後，一直到1991年都是以



◀ 平取町立二風谷愛努文化博物館的入口。

ら右資料館の館長となった。その後1991年まで平取町営の資料館として運営されてきたが、翌1992年1月、二風谷ダム周辺対策整備事業によって二風谷ダム湖近くに新しく建設された平取町立二風谷アイヌ文化博物館へ同資料館の資料はすべて移され、新博物館開館とともに平取町立の資料館は閉館された。

平取町營資料館的方式營運，1992年1月因為二風谷水壩周邊整備計畫的關係，資料館的所有資料移交在二風谷水壩湖區附近新建的平取町立二風谷愛努文化博物館，新博物館開館的同時，平取町立的資料館閉館。

## 萱野茂二風谷アイヌ資料館 と平取町立二風谷アイヌ文化博物館との関係

1992年の3月、萱野茂は自ら所有するアイヌ民具コレクション等を基に、旧「資料館」の建物を一度寄贈したものであるが平取町から150万円で購入し、「萱野茂アイヌ記念館」と名前を変えて新たに開館した。のちに「シシリムカアイヌ資料館」と変更したが、現在は「萱野茂二風谷アイヌ資料館」という名に落ち着き、私立の資料館として運営している。

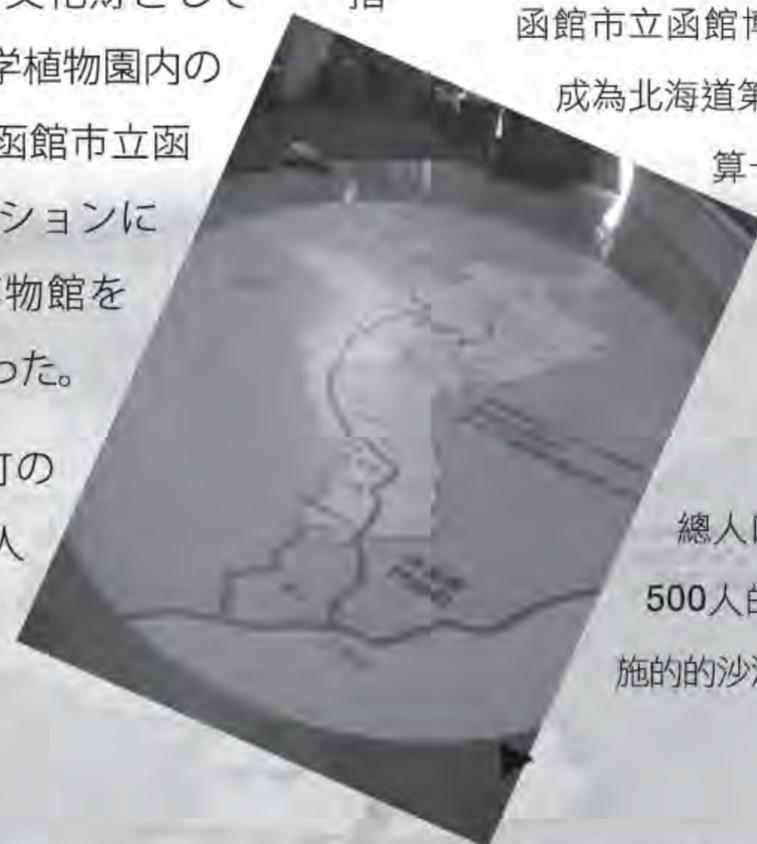
2002年の2月、「萱野茂二風谷アイヌ資料館」に収蔵されている202点と「平取町立二風谷アイヌ文化博物館」に収蔵されている919点の合計1,121点が、国の重要有形民俗文化財に指定された。1953年から萱野茂は、意図的にアイヌの生活用具を収集し、現在「北海道二風谷及び周辺地域のアイヌ生活用具コレクション」と呼ばれる重要な資料を後生に残したと言える。北海道内でアイヌ関係資料が国の重要有形民俗文化財として指  
定を受けたのは、北海道大学植物園内の北方民族資料室の丸木舟、函館市立函館博物館所蔵の馬場コレクションに続く3館（資料館と町立博物館を一つの館とカウント）目となった。

2007年現在、平取町の全人口が6000人弱のうち人口500人という二風谷地区には、国の施設である沙

萱野茂以150萬日圓向平取町買回以前捐贈的舊「資料館」，內置個人的愛努民具收藏品，更名為「萱野茂愛努紀念館」，於1992年3月重新開館。後來變更為「Sisimuka愛努資料館」，現在定名為「萱野茂二風谷愛努資料館」，屬私立博物館性質。

「萱野茂二風谷愛努資料館」所收藏的202件，「平取町立二風谷愛努文化博物館」的919件，合計共1121件民具收藏品，在2002年2月被指定為國家重要的有形民俗文化財。從1953年開始，萱野茂便有計劃地收集愛努的生活用具，可以說是為後輩留下「北海道二風谷及其周邊地區愛努生活用具收藏品」的重要資料。繼北海道大學植物園內的北方民族資料室的獨木舟、函館市立函館博物館所藏的馬場收藏品，成為北海道第3處（資料館與町立博物館算一單位）被指定為國家重要有形民俗文化財。

目前（2007年）平取町の總人口數接近6000人，人口僅有500人的二風谷地區，除了國家設施的沙流川歷史館、町立的博物館、



▲ 沙流川の愛努語地名  
（平取町立二風谷愛努文化博物館地面的展示）。

流川歴史館・町立の博物館・私立の資料館の計三館のほかに、現在はまだ一般開放されていないが北海道大学の文学部二風谷研究室（「マンロー記念館」）もある。

萱野茂は1996年の7月に三省堂から『萱野茂のアイヌ語辞典』を出版した。この辞典には豊富なアイヌ語例文が紹介されており、アイヌ民族の精神文化を理解するため、あるいはアイヌ語作文をする際にはとても参考になる。この例文の豊富さは、他の学者・研究者の追隨を許さないものだ。

平取町立時代の「二風谷アイヌ文化資料館」に展示されていた民具の写真と計測図に、萱野茂が解説を書き『アイヌの民具』（1978年6月、発行：『アイヌの民具』刊行運動委員会）を出している。この本を活用すれば、現在町立博物館に収蔵されている「原資料」を実際に見ながら、アイヌの民具を復元できるようになっており、アイヌ民具の製作者あるいは研究者には重宝な文献である。アイヌ民族出身者が自分で何かを作りたいと考えたとき、それに充分耐えられる資料であると言える。

私立的資料館总共三館之外，還有一處目前尚未對外開放的北海道大學文學部二風谷研究室（「Munro紀念館」）。



▲ 平取町立二風谷愛努文化博物館的館藏，愛努族的捧酒箸。

萱野茂著有《萱野茂的愛努語辭典》，1996年7月由三省堂出版。該辭典有豐富的愛努語例，對想了解愛努民族的精神文化的人或愛努語造句是很好的參考資料。例句豐富是其他學者、研究者所不能及的。

在平取町立時代的「二風谷愛努文化資料館」展示的民具照片和儀器測量圖，萱野茂加以文字解說之後出書，名為《愛努的民具》（1976年6月發行，《愛努的民具》刊行運動委員會）。以這本書為基礎，再實際觀看町立博物館現藏的「原始資料」，可以輕易地讓原物再現，對愛努民具製造者和研究者來說，是非常寶貴的文獻。愛努民族出身的人自己想要製作的話，也是可以信賴的資料。

## 萱野茂二風谷アイヌ資料館 と平取町立二風谷アイヌ文化博物館との関係

1982年、萱野茂は私費を投じて私立の「二風谷子ども図書館」を建て、その建物を使い翌1983年4月から「二風谷アイヌ語塾」を開塾し、地元の小学生や中学生を対象に月2回程度アイヌ語を教え始めた。この「アイヌ語塾」の開塾が契機となり、1987年には社団法人北海道ウタリ協会が運営する「アイヌ語教室」が二風谷と旭川市に開設された。

1987年から2006年までの20年間にわたり、萱野茂は二風谷アイヌ語教室で講師を務め、アイヌ語の伝承、アイヌ文化の継承・保存に尽力した。1988年から道内の各地域でもアイヌ語教室が順次開設され、現在では合計14地域で「アイヌ語教室」が開かれており、アイヌ民族自身がアイヌ語を学ぶ場の確保に成功した。しかしながら、どの教室も最大で月2回程度であり、年間24回合計48時間くらいの学習時間では、語学の習得に必要とされる最低限の時間数が確保出来ないのが現状である。

1982年萱野茂投注個人経費，建造私立的「二風谷兒童圖書館」，利用同一個建築物，1983年4月開設「二風谷愛努語塾」，開始著手教導當地的小學生和中學生愛努語，一個月兩次。由於「愛努語塾」的開辦，才有後來1987年社團法人北海道Utari協會在二風谷和旭川市設立「愛努語教室」。

1987到2006的20年之間，萱野茂擔任二風谷愛努語教室的講師，致力於愛努語的傳承、愛努文化的繼承和保存。1988年道內其他地方也陸續開設愛努語教室，截至目前為止，共有14個地區設有「愛努語教室」，對確保族人學習愛努語環境這個層面來說，是成功的。不過，所有的教室至多只能每個月兩次，一年24次合計48小時的學習時間，還未能達到語言習得所需最低限度的時數。

